

■展示構成\_R7年度

展示コンテンツ

展示コンテンツ	展示施設	展示テーマ	展示内容	展示手法	仕様	多言語	多言語 対応方法	数量	有識者 主なサポート視点	利用 開始時期	補足
1 デジタルコンテンツ	首里杜館 ガイダンスホール	1 復興状況発信	【コンテンツの作成】 下記の情報などをまとめた日本語版の素材を県が提供し、受注者は動画化及び翻訳版を作成する。 ・最新の復興状況発信	動画	・16：9(4K) ・縦長 ・30秒 ・ナレーションなし ・BGMなし。 ・効果音なし。 ・写真、説明文(日：400字程度)、イラスト ・情報提供：有(県が作成する素材(日本語版)) ・補足 別紙1(過年度作成した動画のイメージ(日本語版))	日・英・中(簡)・ 中(繁)・韓	言語毎に 動画を作成する	5	-	2025/12末	・県から提供する日本語素材の提供形式はpptx。 ・関連作業 - コンテンツ登録作業(コンテンツ差し替え作業)を含むこと - 投影箇所については別途協議
		2 復興に関する技術の発信	【コンテンツの作成】 ・展示目的 ・寄附金を活用した制作物で使用される技術を紹介し、復興に必要な技術についての理解を深めるとともに、寄附者への思いを形にする。 ・コンテンツ概要 ・寄附金を活用し制作する物のうち、当年度に予定している制作物で利用される技術を視覚的にわかりやすく伝える。	動画	・16：9(4K) ・横長 ・30秒 ・ナレーションあり(字幕あり) ・BGMあり。 ・効果音あり。 ・情報提供：有(技術検討委員会資料) ・補足 別紙2(復興に関する技術の発信)	日	-	1	○	2025/12末	・YouTube等への配信も想定しているため、音声(BGM・効果音)を付ける。 ・復興展示室内では音声をオフにして再生するため、音声に依存したコンテンツにならないよう留意する。 ・令和7年度のテーマは以下の通りとし、それぞれ1本づつ作成する。 -石獅子 ・1-6で作成する、翻訳したコンテンツに遷移するQRコードの掲載作業も含める。 ・関連作業 - コンテンツ登録作業(コンテンツ差し替え作業)を含むこと - 投影箇所については別途協議
	3 復興に関する技術の発信	【コンテンツの作成】 ・当年度作成する、1-2「復興に関する技術の発信」の動画について、翻訳版のコンテンツ(PDF)を作成する	PDF	・縦長 ・説明文(日：300字程度) ・情報提供：有(ナレーションの原稿(日本語版)) ・補足 別紙2(復興に関する技術の発信)	英・中(簡)・中 (繁)・韓	-	4	-	2025/12末	・翻訳対象の「復興に関する技術の発信」に関する動画は以下の通り。 -石獅子 ・QRコードで読み込みを行い、スマホ等での閲覧を想定する為、QRコード制作作業も含める。(QRコード生成に必要なURLは県から提供) ・1PDF内に全1テーマとする。(テーマ・言語ごとにPDFを制作)	
	4 点群データ計測	【3D点群データ計測業務】 寄附金を活用した制作物について、点群データを収集する為の計測業務を実施する。 計測対象は以下の制作物を想定 ・龍頭棟飾 ・外部木彫刻 ・内部木彫刻	-	・補足 別紙3(点群データ計測に関する仕様について)	-	-	3	-	2025/9末	-	
② パネルボード	復興展示室	5 復興に関する技術の発信	【コンテンツ作成】 ・展示目的 ・首里城復興に係る工事情報と国・県の取り組みを詳細に伝える ・コンテンツ概要 ・技術検討・工事等にあわせた技術に関する情報展示を行う。 ・R7年度は石獅子を想定	パネルボード	・縦長 ・写真、説明文、イラスト ・情報提供あり：有(日本語の説明文については、県から原案を提供) ・補足 別紙2(パネルボードと多言語対応のイメージ)	日・英・中(簡)	-	1	○	2025/12末	・原寸場見学エリアで説明しきれない、首里城復興に係る詳細な工事情報を伝える。 ・毎年展示物の入れ替えを実施するため、入れ替えが容易なパネルボードを利用する。 ・県から提供する日本語の説明文について、有識者の確認を行うこと。 ・展示するパネルボードについては「日・英・中(簡)」の3言語を掲載したものを1式提供すること。 ・パネル内には、QRの掲載も考慮すること。 ・展示位置・構成については別途協議。
		6 復興に関する技術の発信	【コンテンツの作成】 ・当年度作成する、2-5「復興に関する技術の発信」のパネルボードについて、翻訳版のコンテンツ(PDF)を作成する	PDF	・縦長 ・写真、説明文、イラスト ・情報提供あり：有(日本語の説明文については、県から原案を提供) ・補足 別紙2(パネルボードと多言語対応のイメージ)	中(繁)・韓	-	1	○	2025/12末	・「(繁)・韓」については、QRコードを読込ことで翻訳を読むことを想定しているため、デジタルデータ(PDF)として提供すること。
		7 復興に関する技術の発信	【補助機能追加】 ・2-17にて実物展示を想定した展示台を作成する。	展示台	・別紙2(展示物の寸法)	-	-	1	○	2025/12末	・展示物は以下が対象 -石獅子 ・展示デザイン、レイアウト検討、配置含む。 ・毎年展示物の入れ替えを実施するため、入れ替えが容易な展示台を利用する。 ・展示台は展示物のサイズを考慮し、耐震・横揺れ等の安全面を配慮すること。 ・展示構成については別途協議。

その他

- ・新規に製作する造作物や展示物のトーンやマナーは、現状の施設に既設のものに馴染むように配慮する。
- ・記載なき事項は、別途協議するものとする。

# 「今」しか見られない復元工事

## 素屋根見学エリア

素屋根見学エリアは3階建てで、各階ごとに  
見える工事の状況も変わります。

それぞれの階では工事内容に沿った説明パネルの展示や映像上映のほか、  
火災遺物や復元に利用される木材などの実物もふれられることができます。  
「今」しか見られない復元工事の様子を見て・ふれることで首里城を身近に感  
じてください。



2023.9.12 現在

### 「今」しか見ることができない風景

見学エリアは内郭城壁よりも高く、首里や那覇が  
一望できるビューポイントになっています。「今」し  
か見ることができない風景をどうぞご覧ください。



参考) 展示物の寸法

□参考\_石獅子

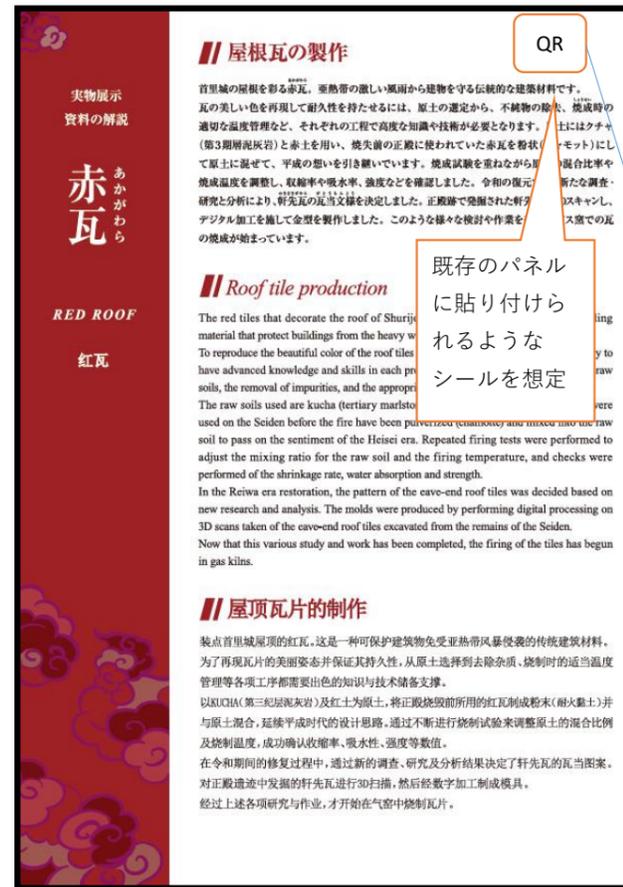
※配置想定箇所：別紙2\_試作品③



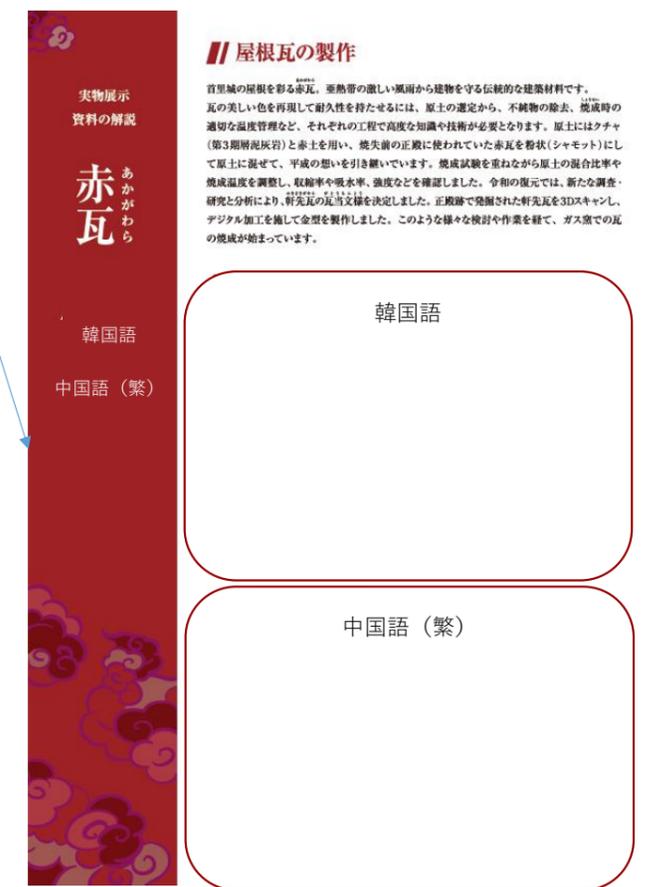
寸法(縦×横×高さ mm) 約 150×150×500

参考) パネルボードと多言語対応のイメージ

□展示パネルボード

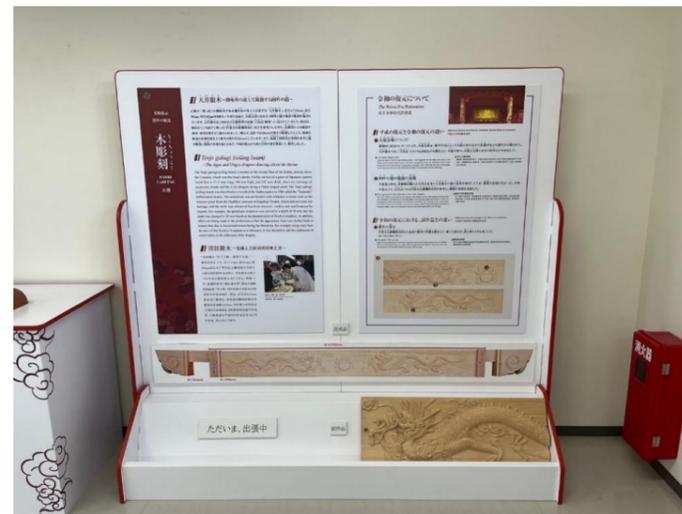


□PDFスマホ閲覧想定



参考) 展示台 (昨年度作成した瓦と木彫刻の展示台) のイメージ

※展示物の寸法に合わせて本年度の展示台を作成する

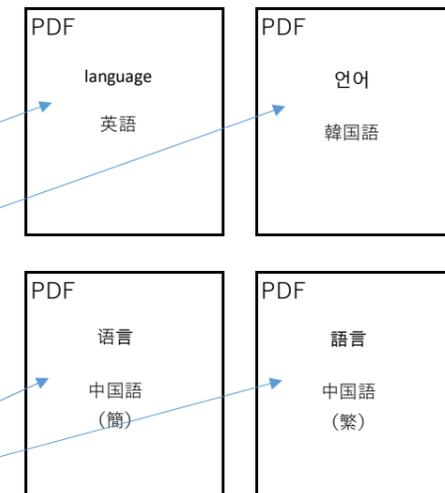


参考) 復興に関する技術の発信

動画内にQRコードを掲載



PDFはWEB上に掲載しスマホ等で閲覧を想定



# 別紙 3

## 点群データ計測に関する仕様について

### 1. 対象建設名称

首里城 正殿

### 2. 建物概要

木造三階 彫刻付き 瓦屋根 入母屋唐破風屋根

### 3. 計測場所

沖縄県那覇市首里金城町1丁目2

### 4. 活用目的

- ・寄附金を活用した制作物について、デジタルデータを活用し展示やイベント、魅力的な発信に活用できる点群データの制作
- ・データを活用し将来的復元可能な点群データの制作
- ・将来図面化が可能な点群データの制作
  - 2D CAD図面制作・3Dモデル制作
  - 点群オルソ図面（スケール入り）
  - メッシュデータの制作

### 5. 計測要件

#### (1) 3Dレーザースキャン（点群撮影）

##### ① 成果品データ精度

- ・成果品データと対象物とのズレ： 20mの距離で1～2mm程度
- ・成果品データの点間隔：0.5～3mm程度
- ・1㎡あたりの点の数： 300万～500万程度

##### ② 計測箇所、計測方法及びスケジュールについて

※現時点での想定であり、実際の計測については首里城正殿復興工事の担当者及び関係者の指示に従うこと。

No.	時期		計測箇所	計測方法	カラー/白栗	撮影日数 ※1日の稼働時間は8時間を想定
1.	R7年	6月～7月	龍頭棟飾（唐破風、大棟）	・地上設置型レーザースキャナー ・ハンディースキャン（装飾部一部併用）	カラー点群	1日（土日の日中計測を想定）
2.	R7年	6月～7月	外部木彫刻	・地上設置型レーザースキャナー ・ハンディースキャン（装飾部一部併用）	カラー点群	3日（土日の日中計測を想定）
3.	R7年	8月～9月	内部木彫刻	・地上設置型レーザースキャナー ・ハンディースキャン（装飾部一部併用）	カラー点群	1.5日（土日の日中計測を想定）

※ドローン撮影は地上設置型レーザースキャナーやハンディースキャンで計測不可と判断した場合のみ活用とする

#### 1) 計測対象の制作物リスト

焼物リスト	
1.	龍頭棟飾（唐破風、大棟）
2.	鬼瓦

外部木彫刻リスト	
1.	唐破風懸魚
2.	入母屋懸魚
3.	唐破風妻飾り
4.	透欄間
5.	向拝奥の彫刻物「金龍」
6.	向拝奥の彫刻物「獅子」
7.	向拝奥の彫刻物「牡丹に獅子・唐草」

内部木彫刻リスト	
1.	須弥壇一式（高欄・龍柱・羽目板含む）
2.	天井額木
3.	内法額木

#### 2) 使用する機材に関する要件について

No	計測方法	機材要件
1.	地上設置型レーザースキャナー	Trimble X9の性能と同等かそれ以上
2.	ハンディースキャン	Artec 3D Leoの性能と同等かそれ以上

#### (2) 点群データの編集

- ・ノイズ処理・不要物削除済みであること  
（点群合成・合体（マージ）・ノイズ処理・不要物削除）
- ・各ステーションの点群データを専用編集ソフトで合成させること
- ・各ファイルの点群データを専用編集ソフトで合体させること  
（ドローン取得データ編集 スケール調整・地上設置型レーザースキャナーと合体）

#### (3) データ製作・点群画像作成

- ・成果品データの仕様  
点群データ：
  - e57のファイル形式（対象物のみ、1ファイル点群100%）
  - オリジナルデータ（全取得データ）（仕様に応じた、点群の間引きに対応する）